

平成二十九年年度

文責 田河
玉東中学校便り 第7号



「希望の虹」

平成二十九年九月一日

いよいよ夏休みが終了し、学校の授業も再スタートとなりました。この夏休みの間、子供たちは猛暑の中、陸上の練習、部活動、学習会等、一所懸命に取り組んでくれました。きっと、大きな結果となって実を結ぶと思います。

県中体連・コンクール結果一覧

○バドミントン部 女子団体↓ベスト8

個人ダブルス(松村・古財) ベスト4

○剣道部 女子団体↓予選グループ敗退

代表男子 中尾大輝↓ベスト⑩

代表女子 菅本弥奈↓ベスト8

高森あゆみ↓初戦敗退

○空手道 男子個人(形) 藤本貴寛↓予選敗退

○水泳 男子個人 清田匠真100m自↓9位

200m自↓予選敗退

大塚天斗50m自↓予選敗退

宮崎一希50m自↓予選敗退

清田晃平50m自↓予選敗退

100m自↓予選敗退



○吹奏楽部 県吹奏楽コンクール ↓「銀賞」

県マーチングフェスティバル参加

「九州中体連大会」

○バドミントン部

個人ダブルス(松村・古財) 初戦敗退

資源回収・除草作業

八月一九日(土)六時三十分から廃品回収、七時からは除草作業が行われました。たいへんな暑さの中でしたが、参加された皆さんのご協力により、無事終了することができました。お陰様でたいへん美しい環境になりました。ありがとうございます。

また、引き続き学年PTAのレクリエーションとしてビーチバレーを親子で楽しみました。体育館の中はうだるような暑さでしたが、楽しい時間を過ごすことができました。企画運営をいただいた皆様に感謝いたします。



世界大会(野球)での学び

一年生の荒木颯太君が八月にアメリカで行われた「カル・リブケン世界少年野球大会」に出場しました。大会結果は、ドミニカ・プエルトリコ・メキシコ・アメリカを撃破し見事優勝でした。荒木君は9番セカンドで出場しました。以下が今回の大会に出場した荒木君の感想(学び)の一部です。

- ・飛行機でのマナーに気をつけ、周りの人の迷惑にならないよう過ごした
- ・わからないことは自分から聞くことを心がけた
- ・洗濯等も自分でしたので親のすごさを感じた
- ・毎日の当たり前のことを誰かが支えてくれている
- ・試合では戦う相手に感謝して野球をする
- ・日本とは違う戦術、細かな技でなく大胆な戦術
- ・体格が違う、大きい人は一七〇cm後半だった

(以上、荒木君の作文より抜粋)

野球の技術や戦い方に留まることなく、いくつもの貴重な学びがあったようです。ぜひ、玉東中の友達にも経験したことを伝えて欲しいと思います。



心の栄養となる言葉④

「障子を開けてみよ 外は広いぞ」

豊田佐吉(発明家・実業家)

(十代のための座右の銘 大泉書店より)